

SNS等での投稿による 被害について



SNSは情報収集やコミュニケーションツールとして便利で楽しいものですが、利用に伴うリスクが存在します。例えば、インターネット上には「ネットストーカー」と呼ばれる、SNS等で知り合った相手に好意や恨みから執拗につきまってくる人がいます。SNS等での投稿により被害にあった事例を基に、個人情報漏えいの危険性について考えてみましょう。

A子さん(〇〇中学校女子生徒)の事例

Aさんは、SNSで、自分の投稿を見た人たちから寄せられるコメントやメッセージを楽しみにしていました。ある日、面識のない男性から「僕と友達になってください」というメッセージが届けられ、最初は興味本位で返信していましたが「顔写真を送って」「電話しよう」など、あまりにもしつこくメッセージが送られてくるため、そのうち返信するのをやめました。しかし、そのあとも男性から脅迫的なメッセージが次々と送られてきたり、「家はわかっているんだからな」というメッセージとともにAさんの自宅の写真も送られてきました。怖くなったAさんはアカウントを削除し、警察に相談しました。

どのように自宅を知られてしまったのでしょうか？



「〇〇公園」ってことは△△市の公園だな。△△市の学校を検索してこの制服を探してみるか…

学校名がわがってしまうと…



学校帰りに待ち伏せされ、あとをつけられることで、相手に自宅を知られてしまうケースがあります。

御家庭での対応

単に個人情報を書いてはいけないと指導するのではなく、SNS上で個人情報を公開することの危険性を子どもたちと考えてみましょう。「個人情報を書かない」という意識はもちろん大切ですが、それと同時に「何が個人情報なのか」を子どもたち自身に意識させ、一枚の写真からでも個人情報を特定される危険性があるということを子どもたち自身に理解させることが重要です。